

13歳で『オペラ座の怪人』を観て夢中になり、10代からミュージカルを書いていました。13歳からピアノを始め、音楽理論を独学で学びました。またクラシック、ロック、ヒップホップ、ジャズ、カントリーなど、あらゆる音楽、ミュージカルもたくさん聴きました。まだインターネットがなかったので、父のレコードコレクションから、フリートウッド・マック、ジエームス・テイラー、ジョニ・ミッチェル、ステイビー・ワンダー、ビリー・ジョエルなどをよく聴きました。

大学生になると、今度は演劇に夢中になりました。15歳の時に『ミス・サイゴン』が上演され、信じられないくらい素晴らしかったんです。そこで、俳優・シンガーになってウエストエンドの舞台に立つことが夢になりました。しかし俳優はほんの少しやっただけ。その後、演出を手掛けたりもして、それらの経験は今、生かされています。ずっとミュージカルの作曲



ローレンス・マーク・ワイス

LAURENCE MARK WYTHE

ろーれんす・まーく・わいす イギリス人作曲家・脚本家・演出家。ロンドン発のミュージカル『トゥモロー・モーニング』は11年、オフ・ブロードウェイで上演。アウター・クリティクス・サークル賞新作ミュージカル賞にノミネートされた。テオ・バックリーというペンネームでインストゥルメンタル音楽も書いている。

をしたいと心の片隅で思っていますが、『トゥモロー・モーニング』を作るまでは作曲に専念する自信がありませんでした。今でも作詞もしますし、台本も書きます。モットーは、自分が観たいもの、聴きたいものを作ることです。

—— 現在、進行中のプロジェクトはありますか。
今は休養中で、仕事漬けの日々

からシンプルな日々に戻そうとしていたところなんです。この映画に多くを捧げてきましたからね。ティム・ナツプマン脚本・歌詞で僕が音楽・歌詞を手掛けた『Mind Eater』の映画化について製作チームと話しています。また非常に有名な映画をベースにした新作ミュージカルを書くつもりで、いつか実現させたいです。ミュージカルを書くのは大変なことですが、情熱を再発見し、再び楽しみたいと思っています。この映画は、私にまだ言いたいことや書きたいことがたくさんあることを教えてくれました。

—— 13年の日本語版はご覧になりましたか。

はい。キャストは最高で、それまでのどの上演よりも素晴らしいものでした。英語以外での上演を観るのは初めてで、私が作ったものが別のレベルに動いたというか、自分が生きている世界から飛び出したような気分になりました。私が全く関与す

ることなく上演されたのも初めてでしたが、作品がきちんと成り立っていて、ほっとしました。優れた人々の手に良い作品を預けると、魔法が起こるものですね。観客の皆さんは、何度も足を運んでくださいました。この映画版も同じように、愛していただけたらうれしいです。

② 結婚と離婚、人生はなんて切実でしょう！ なかなか海外に観劇旅行に行けない方は、このミュージカル映画でサマサとラミンの美声に浸ってみては？(三)

INFORMATION



映画『トゥモロー・モーニング』

12月16日(金)よりYEBISU GARDEN CINEMA、シネスイッチ銀座ほか全国公開
配給: セテラ・インターナショナル
<http://www.cetera.co.jp/tomorrowmorning/>